

教科	生活科
第2学年 『生きもの なかよし 大作せん』	
日時	令和8年6月16日(火)
授業者	柏原 真由美
本時のねらい	身近な生き物の様子を観察し、それぞれの困りごとや元気になる方法について伝え合うことを通して、生き物の特徴や育つ場所に合わせたお世話の仕方に気づき、進んで飼育活動に生かそうとする。
キーワード	思い・願い、試行錯誤、気づき
授業の実際 (本時の子供の姿)	生き物を飼育する中での困り感を解決するために、生き物が元気になる方法を考える活動を実践した。本時は、友達と相談しながら試行錯誤する姿が見られ、「ダンゴムシは、じめじめした所が好きだから霧吹きをかけよう」「ヤゴがトンボになるには枝が必要だよ」といった、生き物の特徴に注目した発言が飛び交った。観察や世話を通して、生き物によって好きな環境や食べ物が違うことに気づき、命に寄り添いながら進んで飼育活動を工夫する姿が見られた。
事後協議の概要	本時の授業について、主に3つの視点から協議が行われた。1点目は、めあての設定である。事前の飼育で困り感を解決している子供が多く、「より元気になるためのお世話の工夫」へと、子供の実態に合わせて広く捉える必要性が示された。2点目は、活動中での教師の支援である。異なる生き物を飼育する他の子供と飼育の仕方を比較させたり、生き物の特徴に気付かせたりすることで、さらなる意欲を引き出す言葉かけが求められた。3点目は、子供の思いや工夫を言葉にすることである。生き物の特徴や環境の違いに気付かせる際、自身のお世話のこだわりをより具体的に語らせる場を設定すべきであった。これにより、個々の気づきが学級へ波及し、より深い学びへとつながるという示唆を得た。

